

道有林基本計画 (案)について

令和4年(2022年)2月
北海道水産林務部

道有林基本計画（案）の概要

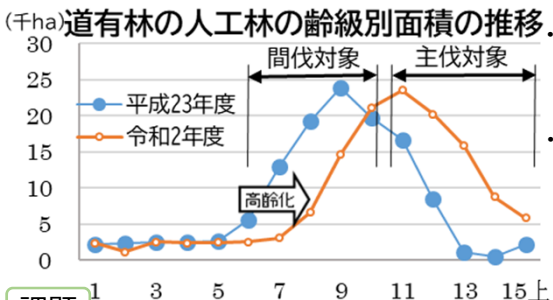
第1 計画策定の考え方

- ・「北海道有林野の整備及び管理に関する規程」第5条に基づき、道有林の整備及び管理に関する基本方針などを示し、北海道森林づくり基本計画の施策別計画として位置づけられるもの
- ・計画の期間は、令和4年度から令和13年度までの10年間とし、5年毎に見直し

第2 道有林の整備・管理に関する基本的な方針

民有林の森林づくりを先導する旨、新たに記載

1 取り巻く情勢と直面する課題



主伐の対象となる高年齢の森林は増加の見込み
 ・伐採量の大半を占める間伐の対象となる若齢の森林は減少の見込み

課題

本道では、伐採対象となる人工林の減少が見込まれる一方で、天然林については、20年ほど前から伐採が減少し、資源が回復しつつある

将来にわたり公益的機能の高度発揮や木材の安定供給が可能となるよう人工林の計画的な整備とともに、広葉樹の育成を進める必要

2 道有林の果たすべき役割

- 道が直面する課題の解決に向けて、先導的な森林づくりを実践
- 将来にわたって森林資源の保続が図られるよう、次の事項に取り組む
 - ①ICTを活用して人工林に加え天然林の資源量を把握する新たな手法の確立
 - ②森林の現況に応じて、積極的な伐採・再造林、人工林の針広混交林化、活力ある天然林の育成を行う北海道らしい森林づくりの確立
 - ③針葉樹に加え広葉樹を有効に活用した地域への原木の供給

道有林の果たすべき役割を踏まえた基本方針

民有林を先導する取組を重点的な取組事項として設定

3 基本方針と重点的な取組事項

基本方針①

森林の現況に応じた多様で先導的な森林づくり

道有林の多面的機能の持続的発揮を図るため、ICT等を活用して把握した森林資源の現況に応じて、積極的な伐採・再造林、人工林の針広混交化などにより多様な森林づくりを推進

<重点的な取組事項>

- ①ICTを活用した森林資源の把握
- ②積極的な伐採・再造林
- ③天然力を活用した森林づくり

基本方針②

資源や技術力を活用した地域貢献

ICTなどの新たな技術を活用することにより、森林施業の低コスト化や省力化を進めるとともに、地域の木材需要に応じて原木の安定供給を行うなど、資源や技術力を活用して地域に貢献

<重点的な取組事項>

- ①森林施業の低コスト化・省力化の推進
- ②道有林の森林づくりを担う林業事業体の育成
- ③地域の木材需要を踏まえた原木の安定供給
- ④企業等と連携した森林づくりによるゼロカーボン北海道への貢献
- ⑤胆振東部地震被災地の復旧
- ⑥道有林の森林づくりを担う人材の育成

4 計画の長期的目標

計画の実効性を高めるため「計画の長期的目標」を新たに設定

①森林の現況に応じた多様で先導的な森林づくり

育成単層林・育成複層林・天然生林別の森林面積

・多様な樹種や林齢からなる森林の育成を目指す

（育成単層林について、公益的機能の発揮が特に求められる森林では、带状など部分的な伐採と植林を行うほか、広葉樹が混交している森林では、間伐により針広混交林化を図り、育成複層林へ誘導

区分	R1	R13
育成単層林	119千ha	110千ha
育成複層林	82千ha	91千ha
天然生林	408千ha	407千ha

②資源や技術力を活用した地域貢献

森林づくりに伴い産出される木材の量

・道有林の森林づくりに伴い産出される木材が有効に活用されることを目指す

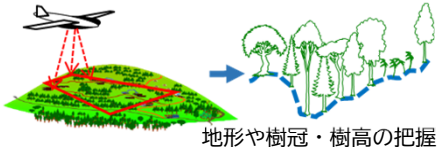
52.2万^m³/年 (H29～R2までの実績平均) → 59.5万^m³ (R13)

第3 道有林の整備・管理に関する基本的な事項

1 森林の現況に応じた多様で先導的な森林づくり

ICTを活用した森林資源の把握

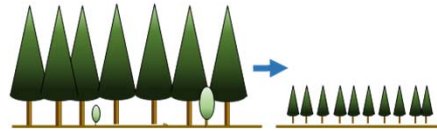
- ・航空レーザ計測などのICTを活用して、広範囲の森林資源を効率的に把握



地形や樹冠・樹高の把握

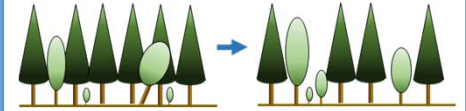
積極的な伐採・再造林

- ・植栽木の成長が良好など、条件の良い人工林について、公益的機能の発揮に配慮し、計画的な伐採と再造林を推進



天然力を活用した森林づくり

- ・広葉樹と混交している人工林は針広混交林化、資源が回復しつつある天然林は抜き伐りにより下層木を育成し、活力ある森林へ誘導



路網の整備

- ・施業の集約化を図るため、丈夫で簡易な路網を整備



林業専用道

森林の保全

- ・貴重な生態系を維持している森林を保全
- ・罠いけによるイノシシ捕獲など森林被害対策を推進



クマゲラ

森林の管理

- ・高山植物等の不法採取の防止に向けた巡視活動等、適切な森林管理を推進



高山植物(アポイ岳)

2 資源や技術力を活用した地域貢献

森林施業の低コスト化・省力化の推進

- ・ICTハースタなど先進的な高性能林業機械や下草刈り用の林業機械の導入を促進
- ・下草刈り作業の省力化につながるよう、成長の良いカラマツ類のコンテナ苗を率先して植林



林内で丸太を玉切るハースタ

道有林の森林づくりを担う林業事業体の育成

- ・造林・保育作業の軽労化や木材加工工場と連携してトドマツ大径木の付加価値向上などに取り組む地域の林業事業体を育成



機械による下草刈り作業



トドマツ丸太

地域の木材需要を踏まえた原木の安定供給

- ・建築用材や家具材、森林認証材等、地域特有の需要に対応するため、素材生産事業者や木材加工工場等との協定締結などにより、原木を安定的に供給



企業等と連携した森林づくりによるどカーボン北海道への貢献

- ・企業等と連携した森林づくりを進め、関係市町と共同でオフセット・クレジットを販売



胆振東部地震被災地の復旧

- ・被災森林の復旧に率先し取り組み、その成果を地域の森林所有者等に普及



地震による被害地

道有林の森林づくりを担う人材の育成

- ・広葉樹伐採等の技術に加え、ICTや森林施業の低コスト化・軽労化などの新たな技術を有する人材を育成



職員向け広葉樹丸太の品等格付け研修

道有林の活用

- ・木育マイスターや企業による森林体験学習など木育活動の場としてフィールドを提供



森林体験学習

第4 計画の推進体制

- ・意見交換会の実施等により、道民や市町村の意見を把握し、森林の整備・管理に反映
- ・本計画に基づき、各(総合)振興局長は、管理区毎に道有林の整備・管理に関する計画を策定
- ・毎年、実績や進捗状況について点検・評価を行い、結果を次年度の事業に反映

パブリックコメント等の主な意見と対応

計画素案の該当箇所	素案に対する 主な意見	意見を受けての修正内容
<p>はじめに 「また、<u>中長期的な課題として、これまで伐採の主体となってきた30年から60年生の人工林資源の減少が見込まれることから、公益的機能の高度発揮や地域の木材需要を踏まえた原木の安定供給を図るため、積極的な主伐・再造林に加え、広葉樹が混交した人工林の針広混交林化など北海道らしい森林づくりに取り組んでいきます。」</u></p>	<p>・ICTを活用して資源把握を積極的に進め、公益的機能の発揮に配慮した森林づくりにより、広葉樹材の供給を進めるべき。</p>	<p>■天然林の資源現況と森林づくりなどの記載を追加</p> <p>「また、<u>人工林においては、これまで伐採の主体となってきた30年から60年生の資源の減少が見込まれることから、積極的な主伐・再造林に加え、林内に侵入した広葉樹の育成による針広混交林化を、天然林においては、20年ほど前から伐採が減少し、資源が回復しつつあることから、下層木の育成を目的とした抜き伐りによる活力ある森林への誘導などを進め、将来にわたる公益的機能の高度発揮や地域の木材需要を踏まえた原木の安定供給に向けて、北海道らしい森林づくりに取り組んでいきます。</u>」</p>
<p>第2 道有林の整備・管理に関する基本的な方針 4 基本方針と重点取組事項 (1) 森林の現況に応じた多様で先導的な森林づくり ウ 天然力を活用した森林づくり</p> <p>「森林の現況に応じて人工林の針広混交林化、活力ある天然林の育成を行い北海道らしい多様で健全な森林づくりを確立します。」</p>	<p>・天然林の抜き伐りによる天然力を活用した森林づくりについては、拙速に行うことなく、時間をかけて取り組むべき。</p>	<p>■意見の趣旨を踏まえて修正</p> <p>「森林の現況に応じて人工林の針広混交林化、活力ある天然林の育成を行い北海道らしい多様で健全な森林づくりを推進します。」</p>
<p>第2 道有林の整備・管理に関する基本的な方針 2 道有林を取り巻く主な動向 (2) 人工林資源の現況と木材需要の高まり</p> <p>「道有林のトドマツ、カラマツなどの人工林の約6割は利用期を迎え、<u>引き続き、主伐の対象となる高年齢の人工林が増加し、間伐の対象となる成長が旺盛な若年齢の人工林の減少が見込まれます。</u>」</p>	<p>・森林の持つ公益的機能の発揮を図る森林づくりを進めるべき。</p>	<p>■森林の有する公益的機能の発揮に関する記載を追加</p> <p>「道有林のトドマツ、カラマツなどの人工林においては、<u>水を貯え・浄化する機能、土砂流出や山崩れを防止する機能などの公益的機能の発揮を図るため、計画的に主伐・再造林や間伐などの整備を進めてきました。人工林の約6割は利用期を迎えており、主伐の対象となる高年齢林が増加し、間伐の対象となる成長が旺盛な若年齢林の減少が見込まれます。</u>」</p>